

同志社校友会佐賀県支部総会開催にあたって

同志社大学長の植木でございます。

本日は、同志社校友会佐賀県支部総会の開催、まことにおめでとうでございます。衷心よりお慶び申し上げます。コロナ禍の困難な状況の中、開催にあたりご尽力くださいました関係者の皆様に心からの敬意と感謝を表します。

福井章司支部長を中心に活発な校友活動を行ってくださっておりますこと、本当にうれしく思っております。

2020年度の校友会活動は、コロナ禍のため、ほとんど延期または中止となってしまいました。私も2020年4月に学長に就任してから、校友の皆様とお話しする機会が少なく、残念に思っておりました。

本日はこのように校友の皆様が集い、その絆を深め合う機会をお持ちくださいましたこと、大変うれしく思っております。

コロナ禍における大学の状況は、2020年度春学期の全面ネット配信授業から、秋学期の対面授業再開を経て、本年度春学期は、感染予防対策を徹底の上、対面授業とネット配信授業が科目数換算で7：3、受講者数で約半々で実施しました。9月25日から開始された秋学期も引き続き同様の方針で行っております。

刻々と変わるコロナ禍の状況に対応しながら、本学ではすでにお知らせしている通り、創立150周年に向けた「同志社大学ビジョン2025 躍動する同志社大学」を策定し、教育改革に取り組んでいます。

昨年4月に学長に就任してすぐに、ビジョンの行動計画の内容について、これまでの点検評価を実施し、大学評議会で、新たな行動計画である第3版を承認決定しました。現在、当該計画に基づき教育改革を進めております。

この行動計画は、建設事業以外の教育や研究、学生支援などに対するものが中心でしたので、2020年度には、加えて、同志社大学創立150周年記念事業として今出川図書館建設事業、新学生寮建設事業、京田辺キャンパスリニューアル建設事業、スポーツコンプレックス建設事業の4事業を掲げた、新たな「大規模建設事業」を承認決定いたしました。このうち新学生寮は、先日9月7日に無事、竣工式を執り行うことができました。

引き続き、これらの計画を着実に実施し、学生が新たな学びを体感できるキャンパスづくりを目指してまいります。

他方、コロナ禍の影響で、図らずもネット型授業の導入が加速しました。従来、本学の授業は、多くの大学と同様、対面形式がほとんどでしたが、コロナ禍の経験をへて、ネット配信授業にも、さまざまなメリットを見出すことができました。

たとえば、距離と時間の制約から自由になれること、大規模講義において発言や質問がしやすいこと、反復学習ができること、大人数の集団が苦手な学生さんにとって落ち着いた学習環境が確保できること、などです。

今後は、最先端のICTを活用できるよう、情報環境の整備を進め、教育のデジタルトランスフォーメーションの一環として、曜日講時を指定しない「インターネット科目」を運用するための制度整備、対面授業とネット配信授業を併用するハイブリッド型授業の検討などを進めてまいります。

また、今後の大きな挑戦としては、世界的課題となっている、カーボンリサイクルに対する教育研究の一大拠点を形成するため、「教育研究プラットフォーム」という新たな枠組みを構築しました。

本学では、ダイキン工業株式会社様との包括的連携協定に基づき、「次の環境」に対する教育研究を進めていますが、このプラットフォームでは、さらに国からの支援も視野に入れつつ、「カーボンリサイクル」の社会実装に本学の技術が活用されることを目指しています。ご注目いただければ幸いです。

その他、重点的に取り組む課題について、2021年度は、ダイバーシティの推進を第一に掲げております。

2020年度にはダイバーシティ推進に取り組んでいくことをより明確に社会に発信するため「同志社大学ダイバーシティ宣言」を制定して公表しました。英語版も用意し、共に、ホームページに掲出しています。

また、この4月にはダイバーシティ推進に係る現状分析、改善及び施策の検討等を行う委員会として「同志社大学ダイバーシティ推進委員会」を設置しました。本委員会ではまずは現状分析と課題の洗い出しを行います。直近では、文科省の補助金事業である「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）」に採択されました。また全国ダイバーシティネットワークへも加入し、情報収集につとめています。

また、学生支援機構では、身体、精神等の障害の種別を問わず、シームレスに対応する総合窓口が必要という考えから、障がい学生支援室とカウンセリングセンター特別支援オフィスの機能を統合し、スチューデント・ダイバーシティ・アクセシビリティ支援室を設置しました。

スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室の柱の一つは、この、身体、精神等に障がいのある学生の支援ですが、もう一つの柱は、多様な性別や性的指向・性自認を持つ学生に関わる業務です。

よくメディアなどで紹介される 2018 年の電通調査では、全人口の 8.9%、11 人に 1 人が何らかの性的少数者に相当するとされており、左利きの人と同じくらいいる、とされています。

この数字に基づくと、本学では推定 2600 名の学生が該当することになります。にもかかわらず、本学には、これらの学生の受け皿となる窓口がなく、SOGI (性的指向、<Sexual Orientation>と性自認、<Gender Identity>の頭文字をとったもの)に関わる啓発事業も特に行ってきませんでした。ようやく窓口の設置にいたりしました。

私自身の経験としましても、ある男子大学院生が親しかった友人の男子大学院生に、恋人として交際してほしいと告白したところ、まるで汚いものでも見るような目で見られ、口もきいてくれなくなり、他の学生にも知られてしまったと、泣きながら訴えてきたことがありました。

その学生は大学に来られなくなり、最終的に退学してしまったのですが、教員として、大学として、何かできなかったのか、痛恨の極みであり、今でも辛い思いでいっぱいです。

本学にはジェンダーや男女共同参画に関する研究者も多くいますので、その先生方の知見も活かして、まずは啓発活動を行っていくことが重要だと考えています。また、100 を優に超える関連科目が設置されていますので、それらの科目についての情報発信も必要だと思っています。

ダイバーシティ推進と一言と言っても、その対象は幅広く、さしあたっては、障がい者支援、セクシャルマイノリティー支援、それから男女共同参画、グローバル化推進の 4 点を中心課題として考えています。

創立者新島襄の「人一人ハ大切ナリ」という言葉を受け継ぎ、今まで通り大事にしながら、ダイバーシティの推進に取り組んでまいります。

その他、ビジョン 2025 に関わる取組の詳細は、本学ホームページ上で公開しておりますので、そちらをご高覧いただければ幸甚に存じます。

結びにあたり、恐縮ながら、一つお願いを申し上げます。

今もなお、新型コロナウイルス感染拡大の収束見通しが立たず、経済の停滞とともに、学生納付金負担者の家計や学生のアルバイト収入への影響は、深刻さを増しております。

本学では、一律に学生への給付をするのではなく、経済的に困窮した学生に寄り添った支援を基本方針として様々な対応を講じてきておりますが、学生の学びの継続にとっては、今後もさらに困難な状況の続くことが予想されます。

これまでの間、校友の皆様には幾度となく、経済困窮学生のための募金のお願いをさせていただき、すでに多くのご支援をいただいている上に、重ねてのお願いで恐縮には存じますが、目の前の、困難な状況にある学生を救うために、改めましてご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」の「特定寄付奨学金」は、緊急対応の奨学金の財源となりますので、ぜひご検討ください。

関係者の皆様の本学に対する多大なご助力に深く感謝申し上げますとともに、これからの活動を通じて同志社大学校友会佐賀県支部の歴史と伝統が末永く続き、ますます輝かしいものとなりますことをお祈りいたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

本日は、まことにおめでとうございます。